

# JIS

## スクリーウエイト貫入試験方法

JIS A 1221 : 2020

(JGS/JSA)

令和 2 年 10 月 26 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 土木技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	宇 治 公 隆	東京都立大学
(委員)	綾 野 克 紀	公益社団法人日本コンクリート工学会 (岡山大学)
	石 田 知 子	株式会社大林組
	鹿 毛 忠 継	国立研究開発法人建築研究所
	加 藤 絵 万	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所
	鎌 田 敏 郎	公益社団法人土木学会 (大阪大学)
	木 幡 行 宏	室蘭工業大学
	鈴 木 澄 江	工学院大学
	高 橋 俊 之	一般社団法人セメント協会
	野 口 貴 文	一般社団法人日本建築学会 (東京大学)
	原 田 修 輔	全国生コンクリート工業組合連合会
	久 田 真	東北大学
	前 田 敏 也	一般社団法人日本建設業連合会 (清水建設株式会社)
	丸 山 慶一郎	一般財団法人建材試験センター
	柳 田 直	特定非営利活動法人コンクリート製品 JIS 協議会 (株式会社日東)
	吉 田 敬	公益社団法人地盤工学会 (応用地質株式会社)
	渡 辺 博 志	国立研究開発法人土木研究所

---

主 務 大 臣：国土交通大臣 制定：昭和 51.11.8 改正：令和 2.10.26

官 報 掲 載 日：令和 2.10.26

原 案 作 成 者：公益社団法人地盤工学会

(〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2 TEL 03-3946-8677)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

審議専門委員会：土木技術専門委員会 (委員長 宇治 公隆)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者、国土交通省住宅局 住宅生産課 [〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3 TEL 03-5253-8111 (代表)] 又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 [〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 試験装置	2
5 試験手順	5
5.1 装置の点検及び校正	5
5.2 試験準備	5
5.3 試験手順	6
5.4 試験終了後の作業	8
6 試験結果	8
7 報告	8
7.1 現場報告書	8
7.2 試験報告書	9
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	11
附属書 JB (参考) 技術上重要な改正に関する新旧対照表	19
解 説	24

## まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、公益社団法人地盤工学会（JGS）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、国土交通大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS A 1221:2013** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。国土交通大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

# スクリーウエイト貫入試験方法

## Method for screw weight sounding test

### 序文

この規格は、2017年に第1版として発行されたISO 22476-10を基とし、我が国で使用されている試験装置及び試験方法によって長年蓄積された地盤データに基づいて建築、土木などの設計体系が成り立っていることを考慮し、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。この試験装置及び試験方法は元々スウェーデンで開発されたものであるため、我が国では導入元である国名を考慮して旧規格までは“スウェーデン式サウンディング試験方法”という名称としていた。しかし、対応国際規格ではスウェーデンという国名が付けられていないこと、並びに我が国では試験装置及び試験方法が独自に発展し、対応国際規格とは異なるものとなっていることから、規格名称を“スクリーウエイト貫入試験方法”と変更した。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、附属書JAに示す。また、技術上重要な改正に関する新旧対照表を附属書JBに示す。

### 1 適用範囲

この規格は、自然地盤及び人工地盤を対象として、スクリーウエイト貫入試験装置を用いて、地盤の硬軟、締まり具合及び土層構成を評価するための静的貫入抵抗を求める試験方法について規定する。

**注記** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 22476-10:2017, Geotechnical investigation and testing—Field testing—Part 10: Weight sounding test (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

### 2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS A 0207 地盤工学用語

JIS Z 8401 数値の丸め方

### 3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、JIS A 0207による。